

# バイオリン

取扱説明書

*Violin*  
Owner's Manual

*Violine*  
Bedienungsanleitung

*Violon*  
Mode d'emploi

*Violino*  
Manuale dell'utente

*Violín*  
Manual del usuario

*Скрипка*  
Руководство пользователя

小提琴  
使用手册

바이올린  
사용설명서

日本語

English

Deutsch

Français

Italiano

Español

Русский

中文

한국어

このたびは、ヤマハバイオリンをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

楽器の性能を十分に発揮させるため、また永く良い状態で楽器をお使いいただくために、この取扱説明書をよくお読みください。

## 安全上のご注意 ご使用前に必ずお読みください

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お子様がご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願いいたします。お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

### ■ 記号表示について

⚠ : 「ご注意ください」という注意喚起を示します。 ⓧ : 「～しないでください」という禁止行為を示します。

### ⚠ 注意

この表示内容を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定されます。

ⓧ 物をぶつかけたり、落としたりの乱暴な取り扱いにはさけてください。

⚠ バイオリン本体および弓は、屋内に限定してお使いください。

⚠ 楽器のお手入れの際は、柔らかい布で乾拭きしてください。

ベンジンやアルコール、シンナーは使用しないでください。また、スプレー式の殺虫剤を近くで使わないでください。外装に傷がついたり、変質するおそれがあります。

⚠ 温度・湿度などの環境に注意してください。以下の環境は、楽器の性能に悪影響を与えます。十分注意の上、ご使用・ご保管ください。

- ・直射日光の当たるところ
- ・温度が特に高い場所、または特に低い場所
- ・湿度が特に高い場所または低い場所、ホコリや振動の多い場所

ⓧ 車の中に放置しないでください。夏期や真冬時の温度下では、バイオリンの品質が著しく悪化します。

⚠ この製品は、出荷の際に最適な状態に調整されています。

調整に技術が必要とする部分もありますので、調整が必要なときは、なるべくお買い求めのお店にご相談ください。

ⓧ 改造しないでください。保証の対象外となるばかりでなく、修理ができなくなるおそれがあります。

# バイオリン本体に関するご注意

バイオリン本体は、天然の木（スプルース、メイプル、黒壇など）を膠で接着して作られています。そのため、急激な温度や湿度の変化により接着はがれが生じたり、調弦、演奏がしづらくなったりする場合があります。使用する場所や取り扱いには充分ご注意ください。

にかわ

- 夏・冬は楽器全体が室温に慣れるまで待ち、それから演奏をはじめましょう。
- 演奏後は柔らかい布を用いて、松脂の粉や汚れを十分に拭き取りましょう。

バイオリンはとてもデリケートな楽器です。次のような使い方は、バイオリンを傷める原因になりますので避けてください。

- 直射日光の下での演奏や保管
- 湿気が多い場所での演奏や保管
- ストーブやファンヒーターなど、熱源の近くでの演奏や保管
- クーラーなどの冷風が直接当たる場所での演奏や保管

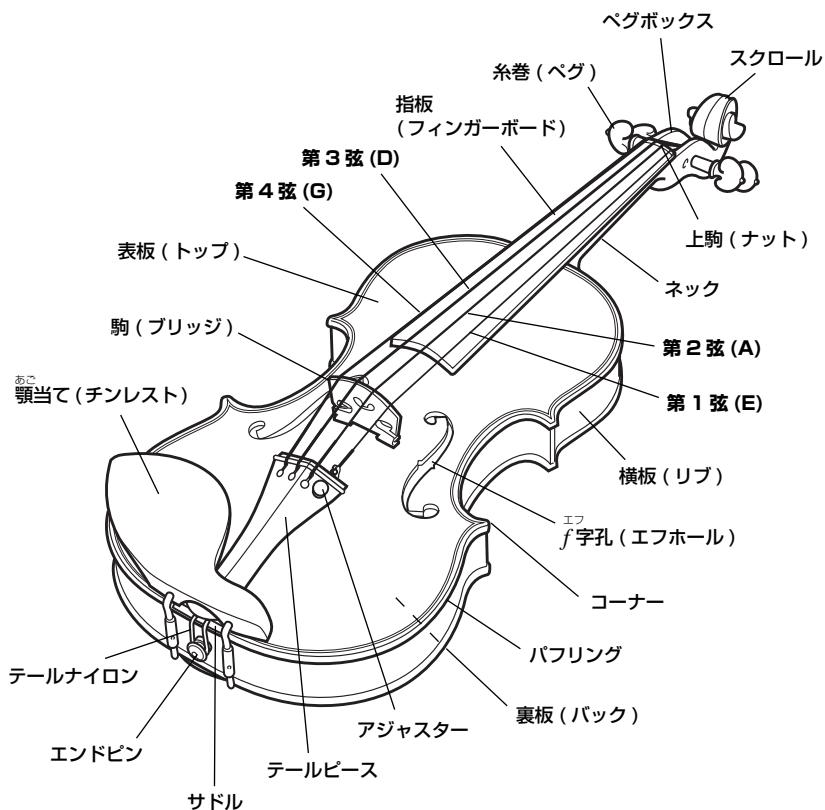
アジャスター、あごあての金属部品などのメッキ仕上げのアクセサリーは、メッキの性質上、時間が経過すると表面が変色する場合がありますが、演奏には何ら支障はありません。なお、初期の変色部分はお手入れによって簡単にきれいになります。（変色の進行したものは、きれいにならない場合があります。）

本製品の部品には天然木が使用されていますので、ご使用の方法や環境によっては、手や身体、クリーニング用の布が黒ずんだり、木製部品が変色する場合があります。身体に着色しても害はありませんが、十分水で流してください。衣服等の黒ずみ、木製部分の変色に関しては保証いたしかねます。

## 音のエチケット

美しい演奏は人にさわやかな感じを与えますが、練習中の音は時には気になる人もいらっしゃいます。ご近所の迷惑にならないように気を配りましょう。

# 各部の名称



※ モデル (品番) により、パーツの形状は異なります。

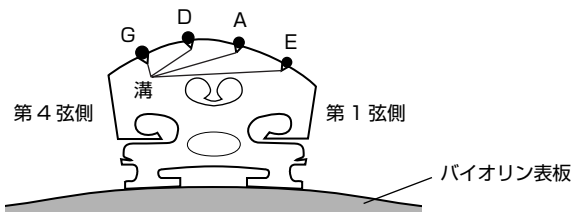
※ 製品の規格および仕様は、改良の際、予告なく変更する場合があります。

# 演奏準備

## ■ 駒の確認について

出荷時、駒は表板の上にセットされ、最適な状態に調整してあります。  
まず駒が正しく取り付けられているかを確認した上で、調弦してください。

- 駒には、弦と弦の間隔が最適になるように、4つの溝が形成されています。  
それぞれの弦が、下図のように駒の溝に収まっていることを確認してください。

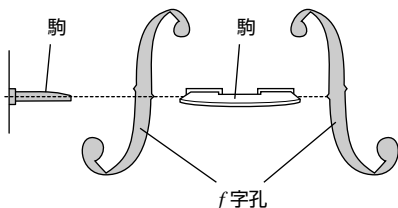


【テールピース側から見た図】

- 左右のf字孔の溝を目安に、下図の位置に駒が立っていることを確認してください。  
位置がずれている場合は、楽器を安定した場所に置いてから、弦を少し緩め、両手で位置を調整してください。また、それぞれの弦が駒の溝に収まっていることを確認してください。

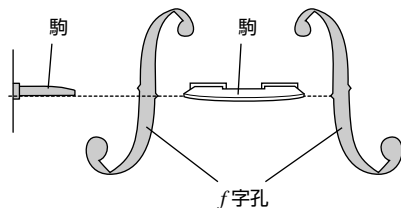
### 【YVN100G/200Gの場合】

f字孔内側の溝を結んだ線と、駒の中心線が一致する



### 【YVN100S/200Sの場合】

f字孔内側の溝を結んだ線と、駒の印字面（テールピース側、垂直な面）が一致する

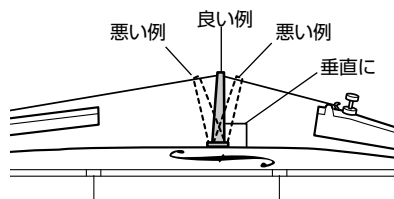


**注意！** ・ YVN100S/200S につきましては、最良の音質と演奏性を得るために、特に上図のような駒位置に設定されています。駒の調整などを委託される場合は、調整される方に上図をご提示ください。

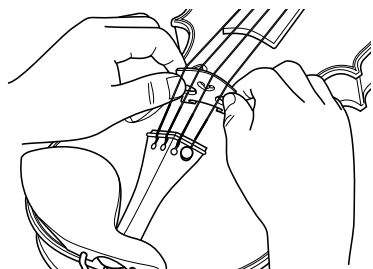
## 演奏準備

- 駒は、テールピース側の面が表板に対して垂直になるように立ててください。傾いている場合は楽器を安定した場所に置いてから、弦を少し緩め、両手で起こしてください。また、それぞれの弦が駒の溝に収まっていることを確認してください。

\* 駒が傾いた状態で使用すると、音質の劣化や駒の変形、破損のおそれがあります。



駒のテールピース側の面が表板に対して垂直になるように、駒を立てます。

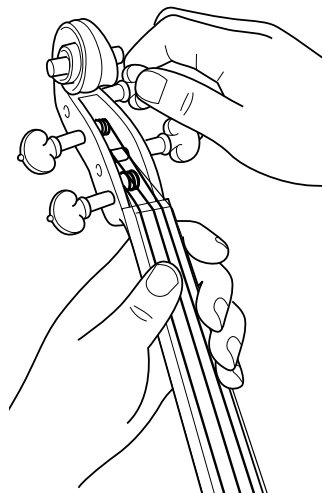


【駒は垂直に立てる】

## ■ 調弦について

- 調弦は、第1弦がE音、第2弦がA音、第3弦がD音、第4弦がG音です。ピアノや音叉、チューナーなどの音に合わせて、糸巻を回してチューニングしてください。糸巻は軽く押し込みながら回します。

- 調弦後、駒のテールピース側の面が表板に対して垂直になっていることを確認してください。傾いている場合は弦を少し緩めてから、駒を両手で起こしてください。



- 第1弦は、アジャスターを回してチューニングを微調整することができます。

**注意!**

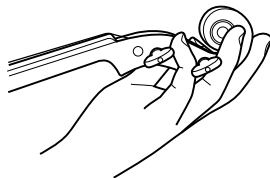
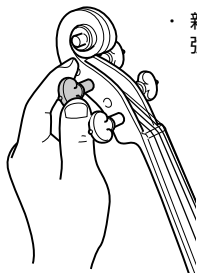
- ・ アジャスターを締めすぎたり緩めすぎたりしないでください。本体を傷つけたり、演奏時の雑音の原因となったりします。
- ・ 駒を本体から取り外す場合、アジャスターと表板の接触によって表板に傷がつくおそれがありますので、ご注意ください。

- 演奏中、練習中においても調弦は必要に応じて適宜行なってください。楽器を持ちながらの調弦には、下図の様な方法があります。

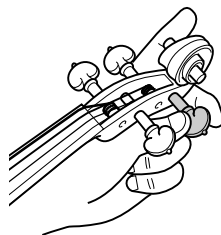
## [正しい糸巻の持ち方例]

**第3弦(D)**

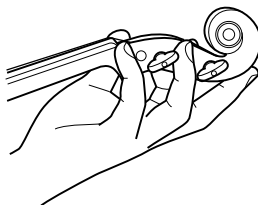
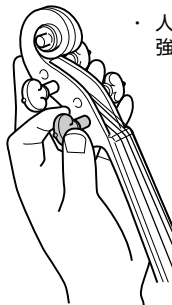
- ・ 親指が第4弦(G)の糸巻に、強く触れないようにして持ちます。

**第2弦(A)**

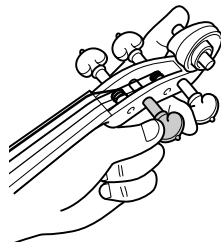
- ・ 親指が第1弦(E)の糸巻に、強く触れないようにして持ちます。

**第4弦(G)**

- ・ 人差し指が第3弦(D)の糸巻に、強く触れないようにして持ちます。

**第1弦(E)**

- ・ 中指が第2弦(A)の糸巻に、強く触れないようにして持ちます。



# 弦の交換について

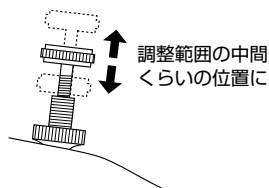
弦は古くなると、音質が劣化し、調弦しても音程が合わなくなります。

弦が古くなったと感じたら、早めに新しい弦に交換しましょう。

全弦を交換する場合も、必ず1本ずつ交換してください。

- 注意!**
- ・ 弦の先は鋭利になっています。指に刺したりしないように気を付けてください。
  - ・ 弦の交換や調整の際、顔を楽器に近づけすぎないようにしてください。不意に弦が切れて目を傷つけるなど、思わぬけがの原因となることがあります。

1. 弦を取り付ける前に、アジャスターを調整範囲の中間くらいの位置まで回しておきます。(第1弦のみ)

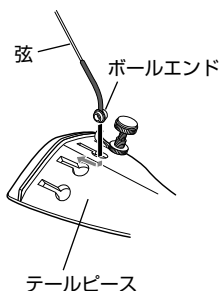


2. テールピースに弦をセットします。

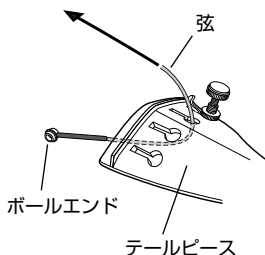
- ・ 4(G) 弦、3(D) 弦、2(A) 弦は、弦の端のボールをテールピースの穴に上面から差し込み(もしくはテールピース裏面より弦端を差し込み)、テールピース裏面に引っ掛けるようにして弦を引き上げます。

## 【4(G) 弦、3(D) 弦、2(A) 弦の張り方】

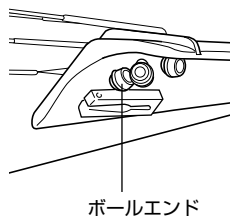
### ● 弦を上面から入れる場合



### ● 弦を裏面から入れる場合



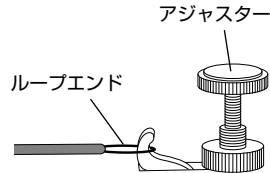
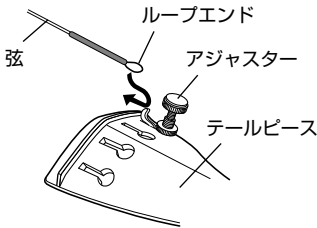
### \* テールピース裏面から見た図



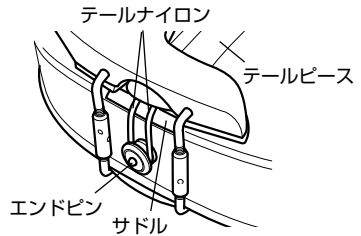


- ・ 1(E) 弦は、弦の端のループエンドをアジャスターに引っ掛けます。

【1(E) 弦の張り方】

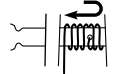


- 注意!**
- ・ エンドピンがバイオリン本体に完全に挿入されていることを確認してください。
  - ・ テールナイロンが、正しくエンドピンに掛かっていることを確認してください。

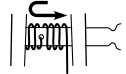


3. 弦を糸巻の穴に通し、巻いていきます。
- ・ 第1弦(E)、第2弦(A)は、右図のように、向かって左側へ2回巻いた後、右側へ巻いていきます。
  - ・ 第3弦(D)、第4弦(G)は、向かって右側へ2回巻いた後、左側へ巻いていきます。

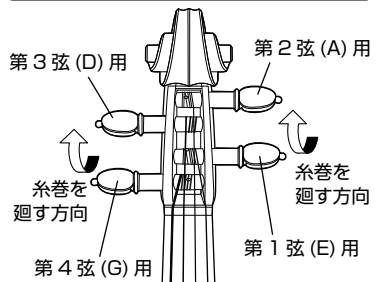
第3弦、第4弦の巻き方向



第1弦、第2弦の巻き方向

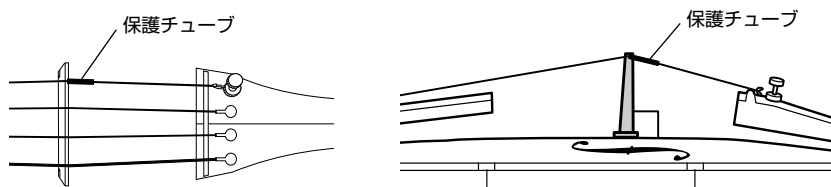


この時、駒が弦に引きずられて指板の方向に倒れないように注意してください。また、それぞれの弦が駒の溝に収まるようにセットしてください。(駒は、常にテールピース側の面が表板に対して垂直になるようにして立てます。)



## 弦の交換について

第1弦(E)に保護チューブが付いている場合は、このチューブを外すか、下図のように演奏のじゃまにならないようにして駒の上に乗せてください。



【保護チューブを駒の上に乗せる場合】

4. ピアノや音叉、チューナーなどの音に合わせて、糸巻を回してチューニングします。
5. 第1弦は、アジャスターを回してチューニングを微調整することができます。

**注意!** ・アジャスターを締めすぎたり緩めすぎたりしないでください。  
本体を傷つけたり、演奏時の雑音の原因となったりします。

- 楽器を長期間使用しない場合は、弦を少し緩めて保管してください。